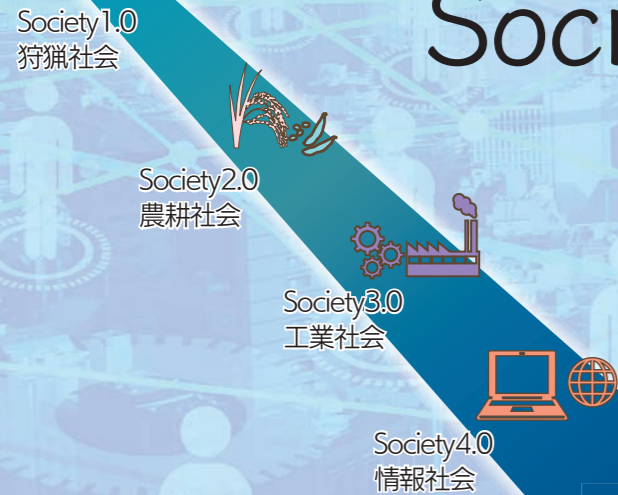
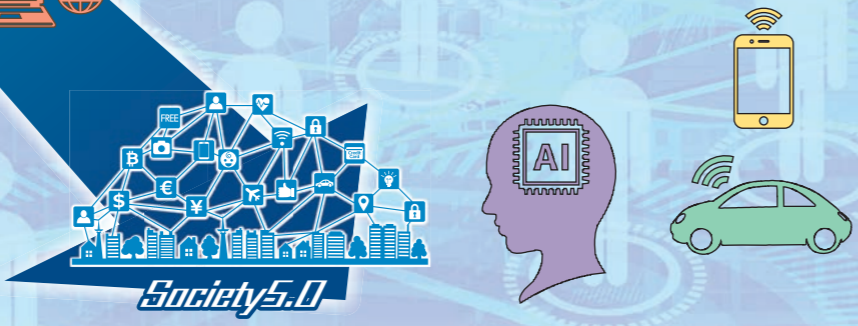


# そもそも Society5.0 って？



Society5.0とは、左図に示す人間社会の5つ目の段階のこととして内閣府が提唱しているものです。現在のSociety4.0(情報社会)では、人がインターネットにアクセスして情報を得たり活用したりしますが、Society5.0では、身の回りのさまざまな道具などがインターネットとつながり、人工知能がデータを収集・分析して、人に対して最適な回答・対応をしてくれるなど、ITが人々の暮らしに浸透し、助けしてくれる社会のことです。



プログラミング教室で、基盤のはんだ付けに真剣な表情で作業する子ども達

## 次代を担う若者や 子ども達が育つまち

### 若者チャレンジ事業

舞鶴版Society5.0の取り組みの1つ、若者チャレンジ事業では、ITに強い人材を育て、地域で活躍してもらうことで、地域課題の解決につなげる。そして、IT人材が地域で働く・起業する環境を作ることで、既存産業の革新や将来的にはIT産業を地域に根付かせ、他地域からもIT人材が流入してくるような環境を作ることを目指しています。拠点は、赤れんが3号棟に設置した「Coworkation Village MAIZURU」です。



このまち「舞鶴」には、古くから当たり前のように存在している自然・歴史・文化・産業を「温故知新」の精神で受け継いできた人々の営みがあります。それらには、携わってきた人の数と年月の分だけの価値と重みがあり、現代を生きる私たちは、これを受け継ぎ、未来へ残していくという使命があります。次代を担う子

ども達に自然科学をベースとしたこれらの地域資源を伝え引き継ぎ、将来このまちで活躍できるスキルや環境を整えていくために、域外からのIT人材・企業の呼び込みなどを目指して「舞鶴版Society5.0」の若者チャレンジ事業に取り組んでいます。

《移住・定住促進課》

**情報社会に続く大きな社会の転換点**

現代に暮らす私たちの生活は、今でも十分便利になったような気がしますが、これ以上どんなことが起こるのでしょうか。

現在、私たちはパソコンやスマホでインターネットに接続し、情報を得るというように、日常生活とインターネットは常につながっているわけではなく、人が必要に応じてアクセスして情報を得ています。

Society5.0は、サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を融合した社会といわれています。この社会では、例えば大雨が降ると、川の水位を分析し、氾濫情報やどこまでの人が避難すべきかといったことをコンピュータが教えてくれる。農業であれば、適温か、水が足りているかどうかといったことを把握して、自動で世話をしてくれる。このほか、提出された手書きの書類を、これまでは人が手作業でパソコン入力し直していたことを、人工知能が読み取って自動入力してくれるなど、人間がアクセスすることによってつながるこれまでのインターネットではなく、暮らしのあらゆる場面にインターネットがつながり、情報を分析して人工知能などが人々の生

活をサポートしてくれるということ。これが今の情報社会との違いです。例に挙げた技術は、現在、市が企業や教育機関と協働で、舞鶴版Society5.0の事業として取り組んでいるものです。

そして、これらの先端技術に携わる人材を育成することも、重要なミッションの1つとして若者チャレンジ事業に取り組んでいます。この事業では、拠点となるCoworkation Village MAIZURU(※)施設を活用し、子どもの頃からITやものづくりに興味を持てるよう、地元企業や施設に訪れる全国の先進的な技術を有する事業者が地域の子ども達に向けて授業や体験教室を行う取り組みを続けています。

本市には、旧海軍鎮守府の設置に伴う造船をはじめとする産業の発展や実践的な技術者を養成する舞鶴高専が立地しているなど、ものづくり産業都市としての性格を持っています。この特性を生かし、子ども達のものづくり体験を通じて豊かな創造力を身に付け、幅広い将来の夢に出会えるチャンスを生み出すこと。そして、都会に出なくても次代の産業に触れ・学べ・仕事にできる環境をつくることを目指しています。

※Coworkation Village MAIZURU…個人事業者や社員が会社以外の場所で共同で仕事をする「コワーキング」と旅先で休暇を楽しむ「バケーション」を合わせた働き方